

“ことばの泉づくりプロジェクト”の意義

言葉は心身のエネルギーの源です。言葉を変えることで心が変わり、思考が変わり、行動も変わります。行動が変われば周囲からの評価も変わります。

自分の言葉を持つためには、まずは自分自身が努力を積み重ねていく過程で、実感や体感したことを言葉で蓄積していく必要があります。

言葉がその人の思考や行動へとつながり、それが周囲との関係性を築きあげるからです。

ことばの泉づくりプロジェクトのゴールは、

ことばを教えることが目的ではなく、相手を思いやるそのことばが出るように至る“心”を育むこと。

①ことばの泉づくりプロジェクト

発達年齢に即した美しい日本語と、自分の考えをお友だちや周囲の人に正しく伝えられるような適切なことばの使い方を学びます。そのために、なお一層絵本の読み語りやクラスでの話し合いの工夫などの具体的な実践を通して進めて参ります。ことばを使って自分の気持ちをお友だちに正しく伝えられなくてケンカになったり、ことばから誤解を生まなくて済むように上手に自己表現ができるようになることを目標としています。

②科学的環境づくりプロジェクト

これまでに整備済の「かがくのかだん」「敬愛こどもミュージアム」「かがくのひみつきち」の科学的環境をどのように保育に活かすかについて研究を深めます。また同時に「敬愛こどもミュージアム」で保護者の皆様にも子どもたちと（年長クラス）楽しい科学の世界を楽しんでいただきたいと思えます。運営は年長クラスの子どもたちが行います。この部屋では必ずしも、なぜそうなるのかについてまでの説明を子どもたちには求めていませんので、保護者の方々に科学の苦手な方も子どもたちとの積極的な会話を通じて純粋に科学の不思議さや面白さを楽しんでいただければ幸いです。また、いつでも参加できる年間9回開催の「かがくのひみつきち」も同様に、高校生でも体験したことのない園長夫婦で行うちょっと変わった科学の楽しさを親子共通の体験として共有出来るように積極的な参加をお願いします。その意味では、子どもたちの教科として小3からスタートする科学への関心を高められるかどうかの鍵は保護者の方々の意識にかかっています。（昨年度は4組のご家庭が年間パーフェクトの参加となりました）

※3年計画で研究を進行させる計画であるとすると“つくる”-“つかう”-“いかす”のように3年間のホップ-ステップ-ジャンプの3段階の流れが考えられる。

③幼稚園まるごとミュージアムプロジェクト

②の「かがくのひみつきち」は年長さん中心のプログラムですが、幼稚園全体が科学的環境の整備と活用を進めることで、満3歳～年中さんまでいつでもどこでも意識せずに科学的な事象の体験や興味・関心の向上を図る事が普段の遊びを通して行うことが出来るようになります。

付随する「季節感を植物の香りで感ずるプログラム」は既に1年前倒しで進行しており、金木犀の花から2か月間をかけて香りを抽出し、各教室でこの香りを噴霧し、子どもたちに先生方がどんな香りを感ずるかを聞いています。“つかう”という段階で活用できます。